

令和6年度事業報告について

I 令和6年度事業報告書

1 基本方針

(1) 自然環境の保全及び活用

名古屋市民御岳休暇村（以下「休暇村」という。）は、御嶽山の麓、自然環境に恵まれ、市民生活を支える水源の木曽川上流域に立地しています。この市民の貴重な財産である広大な自然環境の保全と活用を図りながら、市民や地元と協働して事業を進めました。

(2) 自然体験や環境学習主体の事業運営

豊かな自然を活用した体験事業や環境学習プログラムにより、市民の心身のリフレッシュや健康増進の支援を行うとともに、青少年の健全育成に寄与しました。

(3) 利用促進と効率的な経営

自然体験企画等の充実及び効果的な広報の実施により利用促進に努めるとともに、業務委託の導入等により経費削減を図り、効率的な経営に努めました。

2 事業の実施状況

(1) 公益目的事業

近年、環境に対する関心が高まり、また余暇に対する考え方や価値観も大きく変化しているなか、公益財団法人名古屋市民休暇村管理公社（以下「公社」という。）は、恵まれた自然環境を活用し、休暇村を利用される方々に対して自然体験や環境学習など様々な事業を提供しました。

ア 自然体験事業

休暇村敷地内のヒノキやカラマツなど50ヘクタールに及ぶ人工林の間伐、枝打ち、広葉樹の植樹などの森林整備を地域や木曽川下流域の市民と協働で進める「市民の森づくり事業」を実施したほか、間伐・植樹体験を通して水源涵養や地球温暖化防止（CO²削減）、生物多様性など森林が果たす機能と重要性について学ぶことができる森林体験学習を、なごや環境大学共育講座として実施しました。

イ 青少年健全育成事業

小・中学生を始め青少年が自然の中での集団生活や自然体験活動を行うこ

とにより、自然環境に対する感動や創造性を育む「豊かな心」を醸成し、生命の大切さや人権の尊重など道德性の涵養を身につけることを目的とした青少年の健全育成事業を、大学生のボランティア「キャンプカウンセラー」や特定非営利活動法人(NPO)とともに進めました。

ウ 健康増進支援事業

森林浴や高地ウォーキング、温泉療養、薬膳料理の提供など豊かな自然環境を活用したプログラムの提供により市民の健康増進を支援しました。

(2) 収益事業

ア 施設貸与及び飲食販売事業

名古屋市から遠く離れた休暇村で行われる様々な体験活動等に参加するには宿泊が欠かせないため、宿泊に伴う施設貸与や飲食提供を行うとともに、土産物等の販売を行いました。

イ 旅客自動車運送事業

交通アクセスが良くない休暇村利用において、自家用自動車を持たない人や高齢者が体験活動に参加いただけるよう、貸切バスによる名古屋・休暇村間の送迎を行いました。

3 利用状況

令和6年度に環境保全活動や自然体験活動などの公社主催事業に参加された方は、延べ21,798人で、令和5年度との比較では251人の増加となりました。事業参加者の内訳は、森林学習、植物・昆虫観察や登山、農業体験などの自然体験事業参加者630人、小中学生の野外活動など青少年健全育成事業参加者2,115人、ウォーキングやシニアスキーなどの健康増進支援事業参加者1,458人、食の体験館や天文館等の利用者1,969人でした。これら主催事業のほか、キャンプ技術や野外活動、登山、自然体験学習など公社からの支援を受けられた方は15,626人でした。

なお、休暇村利用者のうち、セントラル・ロッジ及びキャンプ場宿泊者は11,766人で、このうちセントラル・ロッジ宿泊者は9,512人で、前年度に比較して759人の増加となりました。一方、キャンプ場については、今年度、こども村キャンプを夏休み期間を通じて開催することができたこともあり、キャンプ場の宿泊者は2,254人で、前年度に比較し259人の増加となりました。また、旅客自動車運送事業による貸切バスの輸送実績は、56回、2,253人で、旅行業の取扱実績は、81件、1,433人でした。

4 事業参加者促進への取組み

(1) 広報・PR

ア 各種イベントにおける広報

昨年に引き続き、6月のなごや水フェスタや8月の名古屋城夏まつり、9月の環境デーなごやに出展しました。水フェスタ・名古屋城夏まつりでは子どもに人気のあるウォーターコインゲームを、環境デーなごやでは薪割り体験を通して、PR活動を行いました。

また、名古屋城秋まつりの「尾張藩フェア」に王滝村とともにPRブースを出展したほか、山岳イベントである「夏山フェスタ」や東郷町で開催された産業に関するイベントへの参加、イオンモール熱田において御嶽スキー場とともに観光PRイベントの出展等を行いました。

イ 事業案内パンフレットを活用したPR

リピーター客の定着・増加を図るため、ツアーパンフレットを同封したダイレクトメールを発送したほか、市内各区の区政協力委員協議会定例会でのPR、各区役所・支所の情報コーナーやスポーツセンター、生涯学習センター、図書館、児童館等の公共施設等へパンフレットの配架を行いました。

ウ 広報媒体の活用

昨年に引き続き、広報なごやにて多数掲出しました。5月、7月、12月は「くらしのガイド」に、また、7月号では「なごやを歩こう」の番外編として王滝村・休暇村を掲載しました。同じく7月には広報番組「おもてなし隊なごや」で紹介したりしたほか、ラジオ「名古屋市インフォメーション」にて5月に2回広報しました。交通広告としては、地下鉄車両扉下にステッカー広告を上半期、下半期に2回実施するなどの取り組みを進めました。

エ おんたけ休暇村作品展の開催

おんたけ休暇村に宿泊されたり、ツアーに参加いただいたりした方の絵画・写真などを展示する作品展を市民ギャラリー矢田で行い、休暇村の認知度向上に努めました。

(2) 事業の充実等

ア 休暇村の利用促進と公社の財政基盤を強化するため、賛助会員制度の効果的な運用を図り、会員の募集に努めました。

イ 地元の有識者や農林業経験者などの協力を得て、自然環境や文化・歴史等を対象にした体験企画など、参加者の満足度を高める取り組みを実施しました。

ウ 森林浴や温泉浴、高地効果や転地効果など休暇村の立地条件を活用した滞在型の健康増進支援プランを提供しました。

エ 貸切バス経営のメリットを生かし、名古屋・休暇村間送迎の体験企画メニューを実施しました。

5 利用の環境整備等

- (1) 2026年に愛知・名古屋で開催予定の「アジア競技大会」を見据え、競技団体、王滝村や木曽おんたけ観光局など関係機関と協議しながら、ゼミ合宿やスポーツ・サークル合宿、高地トレーニングなどの利用受け入れの環境整備について、検討を行っています。
- (2) 森林浴や温泉浴による「憩いと癒し」や豊富な自然を利用して非日常を体感し、リフレッシュすることができるよう、設備の保全に努めました。

6 地域への貢献と連携

名古屋市から離れた地にある休暇村で様々な事業を展開するには、王滝村を始め地元の協力が不可欠であるため、地元で行われる各種行事や奉仕活動への参加、観光振興イベントへの協力を行うなど、地域との信頼関係の構築に努めました。

- (1) 地域の自然景観、文化・歴史、産業・技術などの資源を活用し、観光による豊かな地域づくりと地域経済の活性化を目的に王滝村や木曽町、木曽おんたけ観光局等が進める各種事業への協力
- (2) 王滝村観光案内所やスキー場などが行う観光振興イベントとの連携
- (3) 地域の自然や歴史、文化、産業などの積極的な紹介と体験プログラム等の実施による相互交流
- (4) 地域の環境保全・整備事業及び奉仕活動への参加協力

7 環境保全への取組み

市民の貴重な財産である休暇村の広大な自然の保護等環境保全に努めました。

- (1) 廃棄物の発生抑制（リデュース）とリサイクルに努めました。

8 安全対策

(1) 施設の保全

ア 建物・機械設備等は、保守点検及び法定点検のほか日常点検を欠かさずに行い、性能の維持管理に努めるとともに利用者の安全確保に努めました。

イ 道路、遊歩道、橋梁、駐車場のほか村内敷地の日常点検を行い、適正かつ安全な状態の維持に努めました。

(2) 事故、災害対策

- ア 消防訓練の実施により、火災等災害の予防、防災意識の高揚及び啓発活動を実施しました。
- イ 危機管理マニュアルに基づき、事故や盗難、破壊等犯罪の発生の警戒、防止及び日常の保安警備を実施しました。
- ウ ノロウィルスなどによる感染症や食中毒防止、レジオネラ属菌対策など衛生管理を徹底しました。
- エ 新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類となったことに伴い、利用者への制限は撤廃しましたが、職員には引き続き検温、消毒液による手指消毒、マスク着用を徹底し、感染防止に努めました。
- オ 自動車事故防止のため、車両の日常点検の実施と運行管理者及び整備管理者による安全な運行管理を行いました。
- カ 全国的に熊や猪の出没が増加している中、休暇村周辺も同様の傾向がみられることから、長野県や王滝村の協力を得て、害獣による事故の未然防止策を講じました。

(3) 個人情報の保護

公社が保有する情報に対して保護対策が十分か定期的に点検し、適切な保護対策を講じました。

- ア 個人情報に記載されている文書は、盗難、災害等による情報の漏えい、滅失または、き損を防止するため厳格な管理をしました。
- イ 電子情報に対しては、人的情報保護対策及び技術的情報保護対策を講じ、情報の漏えい、滅失、又はき損を防止するとともに、ネットワークや情報システム、コンピューターへ不正なソフトウェアの侵入、感染又は、不正なアクセス行為を防止するための措置を講じました。

9 職員の資質向上及び職場環境の改善

- (1) 市民が自然の中で行う様々な体験活動や森林・温泉などの自然環境を活用した健康増進の支援を行うため、事業に必要な各種資格等の取得に努めるとともに、知識・技術の向上に努めました。
- (2) 市民生活を支える水源の木曽川上流域に位置する休暇村の自然環境を保護し、活用するため、森林整備や自然環境保全の知識や技術の向上に努めました。
- (3) 職員一人ひとりが意欲を持てるよう、ハラスメントがなく、働きやすい職場環境づくりを目指しました。

10 長野県南部で発生した地震及び御嶽山噴火による影響と今後の見通しと取組み

(1) 長野県南部で発生した地震の影響と今後の見通し

平成 29 年 6 月 25 日に発生した木曽町を震源とする地震の被害により、セントラル・ロッジを 3 年間休館しました。令和 5 年度は、個人利用・団体利用とも回復基調となったものの、宿泊者数は令和 4 年度から微増にとどまりました。令和 7 年度以降も、利用者の増加のために様々な営業活動を行い、御嶽山噴火前の平成 25 年度利用実績 20,000 人(セントラル・ロッジ 16,000 人, キャンプ場 4,000 人)を目標に掲げ、トータルで 20,000 人を上回るよう、取り組んでまいります。

(2) 御嶽山噴火による影響と今後の見通しと取組

平成 26 年 9 月 27 日に発生した御嶽山噴火の後、王滝口登山道は、御嶽山七合目の田の原天然公園から上部が入山規制されていましたが、現在は、噴火警戒レベルが 1 (令和 7 年 5 月 20 日時点) となっております。

令和 4 年 8 月には、火山防災の情報発信などを目的として、田の原に長野県立御岳山ビジターセンター「やまテラス王滝」がオープンしたほか、令和 5 年 7 月には、王滝村において、八丁ダルミへのシェルターの整備が行われことを受け、王滝頂上から剣ヶ峰への直登ルートが復旧し、登山客が大幅に増加し、令和 6 年度 7 月・8 月の休暇村宿泊者も、前年度より増加しました。

今後も引き続き御嶽山の状況に注視しながら、状況に応じて、地元自治体や観光関連団体との連携や名古屋市の協力を得ながら、利用者の回復に努めてまいります。

11 評議員会の開催

令和 6 年度の評議員会は次のとおりで、各議案とも原案どおり承認されました。

日 時	令和 6 年 5 月 31 日
議 案	令和 5 年度事業報告及び決算の承認について
〃	評議員の選任について
報 告	令和 6 年度事業計画及び収支予算について
報 告	経営戦略及び中期経営計画(令和 3 年度～令和 7 年度)の進捗状況について

12 理事会の開催

令和 6 年度の理事会は次のとおりで、各議案とも原案どおり決議または承認されました。

- (1) 日 時 令和 6 年 5 月 14 日
議 案 令和 5 年度事業報告及び決算の承認について
" 令和 5 年度に関する定時評議員会の招集について
報 告 経営戦略及び中期経営計画(令和 3 年度～令和 7 年度)の進捗状況
について
" 定款第 28 条 4 項に定める理事の職務の執行状況について
- (2) 日 時 令和 6 年 6 月 1 日 (書面による決議)
議 案 代表理事の選定について
- (3) 日 時 令和 6 年 7 月 1 日 (書面による決議)
議 案 公益財団法人名古屋市民休暇村管理公社職員給与規程の一部改正
について
- (4) 日 時 令和 6 年 10 月 1 日
議 案 理事の選定について (書面による決議)
- (5) 日 時 令和 6 年 11 月 6 日
議 案 公益財団法人名古屋市民休暇村管理公社経理規程の一部改正に
ついて
報 告 令和 6 年度前期事業報告及び決算報告について
" 経営状況について
" 定款第 28 条第 4 項に定める理事の職務の執行状況について
- (6) 日 時 令和 7 年 2 月 1 日
報 告 短期資金の借入について (書面による決議)
- (7) 日 時 令和 7 年 3 月 26 日
議 案 令和 6 年度補正収支予算について
" 公益財団法人名古屋市民休暇村管理公社組織規程の一部改正につ
いて
" 令和 7 年度事業計画及び収支予算について
報 告 令和 6 年度資金の運用について

(資料)

令和6年度 公益目的事業

1 主催事業

主催事業回数 78回 延べ参加人数 6,172人

(1) 自然体験事業

実施回数 19回、延べ参加人数 630人

事業名	回数	人数	実施時期
間伐、植樹、下草刈りなど水源の森づくり	0	0	
自然体験登山・トレッキング	11	321	4月, 5月, 6月, 9月, 10月, 11月, 2月, 3月
星座教室、特別観望会	3	177	6月, 7月, 10月
農業、里山、山村体験	2	68	11月
スケッチ・写真撮影会	3	64	10月, 1月, 3月
合 計	19	630	

(2) 青少年健全育成事業

実施回数 25回、延べ参加人数 2,115人

事業名	回数	人数	実施時期
こども村キャンプ	17	1,603	8月
こども村ネイチャーキャンプ	1	24	9月
親子体験（昆虫等観察会・雪の学校）	4	108	7月, 8月, 9月, 1月
こども村スキー・雪遊び	3	380	12月, 3月
合 計	25	2,115	

(3) 健康増進支援事業

実施回数 34回、延べ参加人数 1,458人

事業名	回数	人数	実施時期
健康増進ウォーキング・トレラン教室	21	974	4月, 5月, 6月, 7月, 9月, 10月, 11月
山菜・茸採り体験リフレッシュプラン	0	0	
山野草・薬草観察	3	64	6月, 9月
シニアスキー教室・健康増進スノーシュー	10	420	1月, 2月, 3月
合 計	34	1,458	

(4) 体験館等の運営

参加人数 1, 969人

事業名	人数	実施時期
食の体験館	135	通年
木工・工芸体験館	40	〃
天文館	2,016	4～11月
クライミング体験	93	通年
合 計	1,969	

2 支援事業

支援事業件数 2,312件 人数 15,626人

事業名	件数	人数	実施時期
野外活動・キャンプ指導・青少年健全育成	120	1,841	4～9月
環境保全・環境学習・体験学習	134	820	通年
登山・カヌー・自転車・ウォーキング・ランニング等スポーツ支援	1,063	7,262	〃
自然観察（天文・地質・気象）・植物観察	435	2,474	〃
森林浴・健康ウォーク	463	2,727	〃
絵画・写真・地域文化	97	501	〃
合 計		15,626	